

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H04422

研究課題名（和文）「原爆報道」に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research on atomic bomb reports

研究代表者

小池 聖一（KOIKE, Seiichi）

広島大学・人間社会科学研究科（総）・教授

研究者番号：70274024

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,100,000円

研究成果の概要（和文）：2022年6月12日にペンシルベニア州立大学のM. Susan. Lindee教授を招き、国際シンポジウム「原爆報道」の歴史的検討を開催した。また、2023年3月に、研究代表者・分担者による11論文から構成される最終報告書を『原爆報道の研究』（現代史料出版、2023年3月、ISBN978-4-87785-384-6）として学術論文集として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
研究報告書として刊行した『原爆報道の研究』は、最初の原爆報道に関する総合的な学術研究書であるとともに、これまでの先行研究を大きく訂正する内容を持った論文集である。これまでの原爆報道、原水爆禁止運動、原爆白書運動について先行研究を大きく修正するとともに、被爆者を埋葬した似島問題等、これまで等閑に付されていた問題についても実態を明らかにするなど、学界に問題を提起するとともに、大きく学問的に進展させる内容となった。

研究成果の概要（英文）：On June 12, 2022, we invited Professor M. Susan. Lindee of Pennsylvania State University and held a historical review of the international symposium "Atomic Bomb Report". In March 2023, the final report consisting of 11 papers by the principal investigator and co-investigators will be published, "Study of Atomic Bomb Report" (Gendai Shiryo Shuppan, March 2023, ISBN978-4-87785-384-6) as a collection of academic papers.

研究分野：日本現代史

キーワード：原爆報道 メディア 平和 継承 検証 原水爆禁止運動 原爆白書運動

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

2020年、東京オリンピック開催が予定され、同年は、広島にとって被爆75周年であった。世界最初の被爆地ではあるが、被爆者の高齢化と、それともなう減少により、被爆体験の風化が懸念され、被爆体験の継承が課題とされている。同時に、これまで被爆者に大きく依存してきた「原爆報道」のあり方も、変容を余儀なくされると考えられる。

同時に、そもそも「原爆報道」とは何であったのかを問い、「原爆報道」が明らかにする対象とは何であったのか、同時に、今後の未来にむけて、被爆体験とともに「原爆報道」を持続発展可能なものとするためには、何が必要なかが問われなければならない。そのためには、今日の時点で、まずは、基盤として今日までの「原爆報道」がいかなるものであったのかを実証する必要が痛感された。

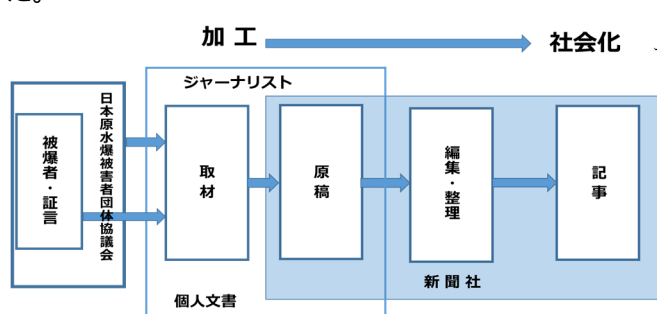
また、本研究が可能となったのは、下表の広島大学文書館「平和学術文庫」において、「原爆報道」を行ってきた中国新聞記者の個人文書(金井利博関係文書、平岡敬関係文書、大牟田稔関係文書等)を集積しえたことが重要な要件であった。この個人文書は、取材から加工、記事となるまでを俯瞰できるとともに、取材原稿からは、社会状況のなかで積極的な発言をなさなかった被爆者個人や、それをとりまく人々の行動を明らかにする一級資料である。本研究では、他の個人文書をも用いながら、今日の状況に引きずられることなく、同時代的分析による「原爆報道」と、それを取り巻く状況について明らかにする必要性を強く認識させられたのであった。

#### 広島大学文書館所蔵本研究関係個人文書

	新聞社	個人文書名	点数	備考1	備考2
1	中国新聞	金井利博関係文書	9,313	論説主幹	公開
2		平岡敬関係文書	888	広島市長・編集局長・中国放送社長	公開
3		大牟田稔関係文書	53,049	論説主幹・広島平和文化センター理事長	公開
4		梶山季之関係文書	25,840	ルポライター・作家	公開
5		森瀧市郎関係文書	約 3,000	広島大学教授	
6	毎日新聞	被団協関係文書	約 250	団体文書	

### 2. 研究の目的

「原爆報道」に関する先行研究は新聞記事分析を中心に、占領期に集中していたが、広島大学文書館所蔵の個人文書を用いることで、取材から記事掲載にいたる過程からも分析することが可能となった。そして、分析対象期間も敗戦直後から、1970年代まで広げることが可能となった。



そこで本研究では、「原爆報道」について、左図のマスメディアが有する機能の解釈・社会化・加工に着目し、以下の三つの視点から分析を行うこととした。

広島大学文書館蔵個人文書を中心に、取材から原稿までの過程を組み込んだ分析。

被爆者側がどのようにマスメディアに対応したか、という点。

原爆傷害調査委員会 (ABCC、現在、

財団法人放射線影響研究所)の実態解明を通じ、情報が流通しなかった理由を明らかにする。

本研究では、この三点を検証することで「原爆報道」というメディア報道の特質を明らかにするとともに、「原爆報道」が継承に資する持続発展可能な方向性を明示することを目的とした。

さらに、解釈・社会化・加工という点は、マスメディアのみならず、それに影響を与えた、同時代の「知識人」、被爆者団体、政府等についても分析を加えることで、研究の立体化を行うこととした。

### 3. 研究の方法

研究は、アーカイブズ学を基盤に、ジャーナリズム班、被爆者・被団協班、③海外班、にわけた。

は、個人文書の分析とジャーナリズム理論の検証を行い、は、被団協関係文書等を用いて実証と思想的背景を分析、③では、当初、海外資料調査も念頭においていたが、コロナ禍もあり、範囲を限定するとともに、特に、ABCCの実態解明を中心におこなうこととした。

理論研究において統計的手法を用いると共に、文献史学による実証と、聞き取り調査を中心とする文化人類学、政治過程論、社会学、思想研究など、多角的な分析方法でおこなうこととした。

具体的には、「原爆報道」と対を成す「原子力報道」については、理論統計的な手法を用いることとした。また、文献史学による実証分析を中心としながら、対象を現地、沖縄、アメリカにも広げることとした。

また、海外調査を前提とした海外メディアと ABCC 研究であるが、このうち、ABCC の被爆者調査については、国内にいる ABCC 関係者からの聞き取り調査を中心にするので、これまで知られることのなかった事実について研究することとなった。また、現代思想として位置付ける作業、これまで知られることのなかった似島の問題、沖縄と広島との関係などについても、分析対象とすることとなった。

#### 4. 研究成果

研究成果としては、次の二点である。

2022年6月12日、ペンシルベニア州立大学 M.Susan.Lindee 教授を招き、国際シンポジウム「原爆報道」の歴史的検討」を開催した。

セッションは、以下の二つであり、

Session 1: The ABCC/RERF with attention to dosimetry, especially address questions of public memory through public claims about does(線量測定から見た ABCC/RERF)

Session 2: The historical experiences of global hibakusha(グローバル被爆者の歴史的経験)

この二つのセッションは、M.Susan.Lindee 教授の報告と、その後の討論によって構成されており、被爆者の存在のグローバル性ととも、ABCC 研に関する資料情報、各研究の問題点などが討論され、大きな成果をあげることができた。

最終報告書を書籍として『原爆報道の研究』(現代史料出版、2023年3月、383頁。ISBN978-4-87785-384-6)を刊行した。内容・目次は、次のとおりである。

序章 小池 1頁

第一章 中国新聞に見る新聞社と新聞記者の戦前と戦後 小池 11頁

第二章 被爆者が眠る島-広島・似島における救護と遺骨 永井均 39頁

第三章 被爆地を訪問した米従軍記者が本国で引き起こした波紋

-残留放射能と毒ガスとの類推を中心に 繁沢敦子 77頁

第四章 原水爆禁止運動と新聞-被爆地広島の中国新聞を中心に 小池 117頁

第五章 「原爆白書運動」の展開と挫折、およびその継承

-「金井利博関係文書」を素材として 平下義記 163頁

第六章 大牟田稔の現地ルポ「沖縄の被爆者たち」と原爆報道

-『中国新聞』の原爆・平和特集報道からみる「沖縄の人」の位置 楊小平 191頁

第七章 原子力報道をめぐる朝日新聞と読売新聞の比較-一九四五年から一九六三年まで

王勁草 237頁

第八章 ABC Cの被爆者調査 中生勝美 261頁

第九章 原水爆禁止運動と広島県被団協の分裂 小池 285頁

第一〇章 森瀧市郎研究覚書

-バトラー研究と日本倫理思想との比較を中心に 柳瀬善治 315頁

第一一章 原水爆禁止運動と「知識人」

-今堀誠二と歴史の創造 小池 345頁

おわりにかえて

小池 381頁

結果、による国際シンポジウム・研究交流を踏まえて、『原爆報道の研究』は、日本で最初の原爆報道に関する総合的な学術研究書であるとともに、これまでの先行研究を大きく訂正する内容を持った論文集とすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中生勝美	4. 巻 173
2. 論文標題 「雲南紀行」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 73 - 83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中生勝美	4. 巻 1
2. 論文標題 戦後日本の人類学史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会科学研究	6. 最初と最後の頁 139-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳瀬善治	4. 巻 19
2. 論文標題 「戦う女」・「演説 = 議論する女」・「慈愛の女」 雑誌『台湾愛国婦人』収録講談速記の女性表象	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 植民地文化研究	6. 最初と最後の頁 199 212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳瀬善治	4. 巻 58
2. 論文標題 三島由紀夫『美しい星』再考—大島渚・吉田大八との比較を中心に—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近代文学試論	6. 最初と最後の頁 41 55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳瀬善治	4. 巻 19
2. 論文標題 森瀧市郎研究覚書 - バトラー研究と日本倫理思想との比較を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 原爆文学研究	6. 最初と最後の頁 92 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池聖一	4. 巻 873
2. 論文標題 「大学の運営に関する臨時措置法」の成立	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 掛江朋子	4. 巻 14
2. 論文標題 Deep-sea mining legislation in Pacific Island countries: From the perspective of public participation in approval procedures	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Marine Policy, in press, Available online	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.marpol.2020.103881	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 柳瀬善治	4. 巻 101
2. 論文標題 紹介 『1940年代の 東北 表象 文学・文化運動・地方雑誌』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳瀬善治	4. 巻 18
2. 論文標題 「ムーゼルマン」の傍らにおける「倫理」と「連帯」は「喩」として 表象可能か 「現代詩論史」の視 角から吉本隆明『「反核」異論』を読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 原爆文学研究	6. 最初と最後の頁 145 - 167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳瀬善治	4. 巻 21
2. 論文標題 雑誌『台湾愛国婦人』における演芸速記について 講談『愛国婦人』における「新選組」「幕長戦争」表 象を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア社会文化研究	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池聖一	4. 巻 21
2. 論文標題 公文書管理法修正試案再考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島大学文書館紀要	6. 最初と最後の頁 1-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小池聖一	4. 巻 21
2. 論文標題 旧制広島高等学校資料、同窓会収集資料としての特質について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島大学文書館紀要	6. 最初と最後の頁 38-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Atsuko Shigesawa
2. 発表標題 "Residue of Hiroshima 75 Years On: Nuclear Tests, Trauma, Identity, and the Ending of the War,"
3. 学会等名 Asian Studies-in-Asia Conference 2020 held online from Japan. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柳瀬善治
2. 発表標題 「戦う女」・「演説＝議論する女」・「慈愛の女」 - 雑誌『台湾愛国婦人』収録の「講談」作品を読む -
3. 学会等名 日本近代文学会2019年度秋季大会 於 新潟大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 繁沢敦子(司会・主催)
2. 発表標題 スーザン・サザード氏講演会「Beneath the Mushroom Cloud: Life After Nuclear War (きのこ雲の下で：核戦争後の人生)」
3. 学会等名 神戸市外国語大学
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 小池聖一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 現代史料出版	5. 総ページ数 289
3. 書名 日本における大学の自治と政策	

1. 著者名 小池聖一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 194
3. 書名 アーカイブズと歴史学	

1. 著者名 Atsuko Shigesawa	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Aya Fujiwara and David Marples	5. 総ページ数 307
3. 書名 "Encountering the Atomic Bomb: The US Strategic Bombing Survey in Hiroshima and Nagasaki," in Hiroshima-75: Nuclear Issues in Global Context	

1. 著者名 陳俊強主編、中生勝美他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 國立臺北大學人文學院	5. 総ページ数 296
3. 書名 文化・聚落・共有財：環境變遷下之永續發展	

1. 著者名 久保朝孝 編 柳瀬善治他54名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 705
3. 書名 源氏物語を開く 専門を異にする国文学研究者による論考54編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-



## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中生 勝美  (nakao katsumi)  (00222159)	桜美林大学・リベラルアーツ学群・教授    (32605)	
研究分担者	柳瀬 善治  (yanase yoshiharu)  (10782328)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・准教授    (15401)	
研究分担者	平下 義記  (hirashita yoshinori)  (20780810)	広島経済大学・経済学部・准教授    (35402)	
研究分担者	川野 徳幸  (kawano noriyuki)  (30304463)	広島大学・平和センター・教授    (15401)	
研究分担者	掛江 朋子  (kakee tomoko)  (30728019)	広島大学・人間社会科学研究科(国)・准教授    (15401)	
研究分担者	楊 小平  (yang xiaoping)  (30736260)	東亜大学・人間科学部・客員研究員    (35503)	
研究分担者	永井 均  (nagai hitoshi)  (40347620)	広島市立大学・付置研究所・教授    (25403)	
研究分担者	王 勁草  (wang jincao)  (70827518)	熊本大学・大学教育統括管理運営機構附属多言語文化総合教育センター・特任講師    (17401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石田 雅春  (ishida masaharu)  (90457234)	広島大学・75年史編纂室・准教授    (15401)	
研究分担者	繁沢 敦子  (shigesawa atsuko)  (90779307)	神戸市外国語大学・外国語学部・准教授    (24501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関